

第三者意見書

企業の社会的責任への取り組みや、情報開示活動についての専門家である、環境監査研究会代表幹事・GRI理事の後藤敏彦様に、「コスモ石油グループ サステナビリティレポート2005」の第三者意見をいただきました。

コスモ石油グループ サステナビリティレポート2005を読んで

環境監査研究会代表幹事・GRI理事
後藤 敏彦



「地球と人間と社会の調和と共生を図り、無限に広がる未来に向けての持続的発展をめざします」という基本理念が掲げられています。しかし今、私達が問われているのは20世紀の延長線上では人類の未来はないということです。「ココロも満タンに」、持続可能な発展を実現するためには、貧困削減、生産・消費形態の変更、天然資源の基盤の保護・管理の3つについて企業も責任を負うというのが2002年の地球サミットの宣言です。「ずっと地球で暮らそう。」は素晴らしいのですがこれに留まることなく、2005年からの新しい連結中期計画では、本業の中でこの3つの観点に常に意識していただきたいと思います。

一般に、CSRと無形資産価値を増大させる取り組みはほとんど同じといわれます。CSR経営の強化が、知的資産、人的資本、組織資本などの価値向上につながる点がポイントです。中期計画ではCSR経営の強化を掲げ、3つの柱、2つの視点、5つの重点項目として整理されています。コンプライアンスを単なる法令遵守以上のものとされていますが、「何を遵守するか」を明確にし、「働いて、わくわく感の持てる会社へ」つなげていくことがキートンと考えます。社員の意識向上に大きな資源を投入されることがうかがわれますので、満足度調査が右肩上がりとなるデータの開示を期待したい。CSRのパフォーマンス、すなわち無形資産価値を貨幣軸ではない別の軸で数値情報化する、つまり可視化することは現時点ではそれほど容易ではありません。現時点においてSRI関連で高い評価を受けているのは結構なことですが、この可視化をどれだけ進化させるかが今後の鍵です。データブックからはチャレンジしておられることがうかがえますが一層の創意工夫を期待します。

コスモ・ザ・カードは相互交流の核として社会からも高い評価がされており大事に育ててほしいものですが、残念なことに委託先の社員の不正使用事件が発生してしまいました。直接管理ができない委託先での事件が巨大なリスクにつながりかねないことを見せ付けたIT社会の怖さです。石油、IT等、巨大科学技術を真にコントロールできるのは、人知を超えた大いなるものに対する畏敬の念です。それを育みつつ、相互交流は引き続き推進していただきたいと思います。関連して、リスクマネジメントの一環として内部監査機能の強化を述べられています。製品品質向上のための投資と同様、内部監査は企業品質向上のための必須の投資であり、自己管理型リスクマネジメント活動との相乗効果を期待したい。

世界の先進的な石油企業ではポスト石油を見据えた施策を実行しだしています。前年ものべましたが、技術開発と新エネルギー分野の定量的な目標がほしいところです。

データブックは一部に経年比較がありませんので改善の要があります。また、全体像が少し見えにくいので executive summaryを入れることと、ページ数も多いので、ウェブとのリンクをもう少し多用することも検討の余地があると考えます。

以上